

# 絵本の魅力発信に注力

絵本に関する高度な技能と知識、感性を備えた「絵本専門士」が県内で活動を広げている。国立青少年教育振興機構による養成講座を受けて認定されたのは、過去3年で全国159人のうち、県内は2人。社会が目まぐるしく変化する中でも愛され続ける絵本に、2人は「心を豊かに、暮らしを潤す力がある」と、それぞれの持ち味を生かして魅力を発信している。

(文化生活部・野島純子)

## 県内専門士2人活動

県内で絵本専門士の資格を持つのは藤枝江崎書店社長の江崎直利さん(60)と藤枝市と、フリーアナウンサーの上藤美紀代さん(59)と静岡市駿河区。絵本作家や大学教授らによる30講義とレポート提出などを経て認定された。

江崎さんは「縁ある人と緩やかにつながり、場所と機会をつくること」を活動テーマに掲げる。藤枝市内で「お花畑でお話会」を9回開き、絵本グループなどと協力して大型絵本の読み聞かせや紙芝

## 読み聞かせや選書法伝授

居を披露した。10回目を今春に予定し、準備に奔走している。

上藤さんは「声と絵本の力の融合」を目標に、療養病棟などで読み聞かせを行っている。作家の意図や絵本の世界観を伝える「読み語り」と、その場にいる人と思いを共有する「読み合い」など、場に合わせた読み方を変える。選書法と、読み聞かせの声の出し方も伝えを模索している。

江崎さんが絵本の魅力を「印象的な絵とシンプルな言葉に深みがあり、心に響く」と言えば、上藤さんも「その人本来の素直さや感動する心を思い出させてくれる力がある」と語る。「同じ志を持つ者で協力できれば」と、2人とも絵本に関わる人々との新たな展開を模索している。



絵本について語り合う絵本専門士の江崎直利さん(左)と上藤美紀代さん  
=2017年12月下旬、藤枝市内